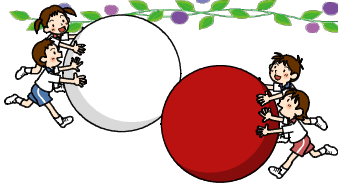




小田小だより

平成26年9月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号 Tel.045(775)3011
<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/> 横浜市立小田小学校



特色ある教育文化遺産 ～秋の運動会に思いを寄せながら～

学校長 木村 昭雄



長い夏休みを終え、元気な子どもたちの声が学校に戻ってきました。厳しい残暑が予想されますが、9月に入れば確実に秋を迎えます。スポーツ、芸術、読書、食欲など、秋を形容する言葉はたくさんある中で、本校ではまずは、運動会の秋でしょう。学級・学年が結束したり、学年を越えた縦割り集団による熱い競技と演技が展開されます。

“One for all, all for one. (ワン・フォー・オール、オール・フォー・ワン)” という言葉をご存じの方も多いことと思います。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」と訳されています。この言葉はラグビーのチームプレイの精神を表す言葉として有名ですが、その語源はラグビーからではなく、フランスの作家アレキサンドル・デュマの小説『三銃士』の中で、ダルタニャンと三銃士の誓いの言葉として登場しています。ラグビーでは、メンバーそれぞれに役割があり、チームのためにひたすら耐えながらスクラムを組む人もいれば、パスを回して華麗なステップを踏んで走り抜けトライをする人もいます。しかし、チームの得点はトライした人だけの成果ではなく、みんなが協力して手にしたという気持ちが強いように感じます。この言葉は、「自分はチームのために責任をもって精一杯自分の役割を果たすぞ」という思いと同時に、「チームが自分を必要としてくれている。一人でも欠けたらダメなんだ。自分はみんながいるからこそチームの一員として頑張れるんだ」という気持ちを大切にしたい言葉ではないかと思えます。

ところで、今年度、世界遺産委員会は6月21日に「富岡製糸場と絹産業遺産群（群馬県）」を世界文化遺産への登録を決定しました。日本からの文化遺産への登録は昨年「富士山（山梨、静岡県）」に続く14件目。自然遺産と合わせた国内の世界遺産は18件となりました。国内で近代以降につくられた産業施設の登録は初めてとなります。

富岡製糸場は1987年に操業を停止しています。保有していた片倉工業（株）は一般向けの公開をせず、「貸さない、売らない、壊さない」の方針を堅持し2005年に高岡市に寄贈されるまでの18年間も維持と管理に専念しています。富岡製糸場は巨大さゆえにその姿をとどめ続けることができたが、固定資産税だけで年間2000万円、その維持・管理費用も含めると1億円以上かかったこともあるとされています。さらに、片倉工業（株）は修復工事をするにしても、コストを抑えることよりも、当時の工法で復元することにこだわったといいます。こうした片倉工業（株）の取り組みがあったからこそ、富岡製糸場が良好な保存状態で残され、世界文化遺産として登録されたとして、片倉工業（株）の貢献は非常に高く評価されています。

今回の登録は日本にとって重要な意味をもつと思います。3年前の「平泉中尊寺（岩手県）」は東日本大震災の復興のシンボルとなり、「富士山」と「富岡製糸場」は「がんばろう！日本」の大きな礎となることでしょう。

「遺産」の意味を辞書で調べると、「比喩的に、前代の人が残してきた業績・成果」とあります。小田小学校の特色ある教育活動の一つに学年の枠を越えて取り組む「縦割り活動」があります。運動会はその「縦割り活動」を中核に据えながら、学校と保護者、地域とも連携を図った「横割り活動」も展開しています。そういう意味で小田小学校の運動会は、これからも発展し続ける「特色ある教育文化遺産」と言えそうです。

“One for all, all for one. (ワン・フォー・オール、オール・フォー・ワン)” の心を大切にして、一人ひとりが「三色それぞれの組」や「学級」「学年」というチームのために自分のよさを生かしながら、かけがえのない感動を味わい、実りの秋をみんなで創出していきたいと思っております。

9月27日（土）。保護者の皆様、地域の皆様、どうか子どもたちの頑張りに温かいご声援をよろしくお願いたします。また、近隣の皆様には早朝からいろいろな面でご迷惑をお掛けすることと存じますが、何卒、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。